

授業改善の具体的指針

－ 学生による授業評価から見た良い授業とは －

平成 26 年度から平成 30 年度までの授業評価のうち、学生による授業評価（項目 2 頁）が 3.5 以上の授業科目について、記載された高評価自由記述を分析した結果（3 頁以降に詳述）、次の諸点が授業改善のポイントとして導出された。

1. わかりやすさの構造

受講生は、理解したい、わかりたいという思いを持ち授業に臨んでいる。したがって、まず、この思いを受けとめることが必要になるであろう。

わかることを支える要素としては、授業の目的・目標が明確であること、授業構成がよく練られていること、説明が的確であること、具体的な事例を用いて説明がなされることがあげられる。教員からのフィードバックがあること、体験型ワークやグループワークなど受講生同士の相互交流が適度に配置されていることも、授業をより理解しやすくなる配慮として有効である。本学の特徴として学生が求めている配慮事項としては、汎用性や学校が抱える課題などが具体的にイメージできるような内容、学生が既存の知識と授業の内容に関連づけがなされることなどがあげられる。授業のテンポや提示される資料や教材・板書を充実させることにより、「学び方を学ぶ」ことができるなど聴き手の学びを促進できるような配慮がなされている授業は学生の評価が高い。

一方で、学生からの要望とは反対の内容になるとも思われるが、わかりやすい、わかるということに、学生が安住することに対する危惧もある。学ぶという行為には、わからないことをわかるようにする「自主的に学ぶ」という行為や、「自分一人で知を開拓していく」ような取組の要素が求められる。わからないというある種欠乏状態に身を置くことによって、わかることへの可能性が開かれることもまた大切である。常に、わかりやすい授業に配慮した授業が展開されると、学生は知を提供してもらうのが当然であるといった思い込み、自らの手で知識を創り出すことに億劫になるというパラドックスが生じることにもなる。学生のニーズに配慮しながら、時には問題提起に留めるなど、学生が自主的に学ぶという行為にも配慮された授業構成が望まれるところであろう。

また、予習内容をもとにしたディスカッションや、授業で得た知や技法を授業後に学生間で再吟味することなど、授業前後も含めた学びの深化の促進についても、その必要性がより高まっている。これらの授業へのさまざまな配慮は、学生の「自明性への懐疑」や「省察性の向上」「知的興奮」といった学生の成長を促すことにもつながっていくものと考えられる。

2. 感動を作り出す授業

良い授業は、ある種の感動を生み出す。授業において、学問の体系性を見出したり、その多様性（多面性）にふれたりすること、授業を通じてなされる思考の促進や気づき、発見などがその要素として求められている。一方本学では、理論と実践の融合や具体性、学校現場での応用可能な知の構築への期待も高い。

教員の説明の的確さやわかりやすさ、用いられる資料の質、一方的でなく受講者の五感を刺激するような工夫といった授業の構成要素、授業の中での相互性（学びあい）や協同性といった授業の形態にも留意することが必要である。これらの授業への配慮は、学生に「楽しかった」「面白かった」といった感覚を学生に喚起し、ひいては学生の意欲の喚起や意識の変化が生まれる素地となるものと考えられる。

3. 授業統括者としての教員の役割

教員は、授業における教授行為に加えて、今後さらに求められる学生間の相互交流などを通じた教育活動から得られる発見や気づき、省察の機会をどのように形成していくことができるかが問われている。その際には、人権に配慮された発言や、演習に際して学生に極度な無理強いをしないことなど、授業を通じて学生に対するハラスメント行為が生じないような授業の安全性への配慮が求められる。

4. 教員の人柄

授業を進める教員は、授業改善への意識や柔軟性を持ち、丁寧な指導を心がけることが求められている。学生の意見を聞く姿勢を持つことや、時には適度な脱線やユーモアを交えながら学生との関係性を向上させることを通じて、教員の人柄にふれながら学びを進めることも学生にとっては重要な評価のポイントである。また、オムニバス形式の授業では、教員間の連携にも配慮したい。同時に学生は、教員のもつ熱意や授業に取り組む姿勢を感じ取りながら、自らの意欲の喚起や意識の変化を引き起こさせられることへの期待をもって受講していることにも留意しておきたい。

学生による授業評価項目

- ① この授業は、目的が明確であり、それにふさわしい内容だった。
- ② 授業計画（シラバス）は学習する上で役立った。
- ③ 成績評価の基準・手続きが示された。
- ④ 教員の説明は、わかりやすかった。
- ⑥ テキスト・プリント等、教材・器具は役立った。
- ⑦ 教員は、学生の参加をうながすため、適切な授業方法を工夫していた。
- ⑧ 教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた。
- ⑨ 教員の熱意や丁寧な対応が感じられた。
- ⑩ 人権、安全への配慮がなされていた。
- ⑪ 私は、授業を構成する一員であるという自覚をもって授業に臨んだ。
- ⑪ 私は、この授業からものの見方や考え方について知的刺激を受けた。
- ⑫ 私は、事前準備をして授業に臨み、授業内容を振り返り、自ら理解を深める努力をした。
- ⑬ （※複数教員担当科目のみ対象）授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。
- ⑭ （※大学院授業科目のみ対象）「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。

①～⑭の回答欄

4：そのとおり 3：ほぼそのとおり 2：あまりそうではない 1：そうではない

学生による授業評価からみた良い授業の構成要素についての分析

1. 分析対象

平成 26 年度から平成 30 年度までの授業評価のうち、学生による授業評価が 3.5 以上の授業科目について、記載された高評価自由記述を分析の対象とした。なお分析は、学部、修士、専門職の授業区分ごとに行い、対象となった自由記述数は全部で 4256 件であった。表 1 にデータの概要を示す。

表 1 分析対象とした自由記述の内訳

年度	区分	授業科目数			高評価自由記述数		
		前期	後期	計	前期	後期	計
平成26年度	学部	32	34	66	92	101	193
	修士	59	50	109	254	126	380
	専門職	22	12	34	169	44	213
	小計	113	96	209	515	271	786
平成27年度	学部	50	41	91	228	155	383
	修士	57	40	97	284	139	423
	専門職	19	8	27	119	18	137
	小計	126	89	215	631	312	943
平成28年度	学部	50	44	94	116	131	247
	修士	78	49	127	284	150	434
	専門職	23	18	41	107	105	212
	小計	151	111	262	507	386	893
平成29年度	学部	55	58	113	171	162	333
	修士	73	56	129	350	236	586
	専門職	18	7	25	34	10	44
	小計	146	121	267	555	408	963
平成30年度	学部	30	34	64	92	94	186
	修士	55	204	259	204	171	375
	専門職	29	29	58	56	54	110
	小計	114	267	381	352	319	671
合計		650	684	1,334	2,560	1,696	4,256

2. 分析手続き

分析の基本的な手続きは、次のとおりである。まず、それぞれの記述について意味的に類似しているものをまとめ、そのまとまりを表現する概念をカテゴリーとして抽出した。つぎに、そのカテゴリーについて意味的に類似しているものをまとめ、そのまとまりを表現する概念を上位カテゴリーとして抽出した。この作業を繰り返した。

その際、学部、修士課程、専門職学位課程の区分ごとに、さらに、学部では 3 つの授業規模（30 人以下、31～80 人、80 人以上）、修士では 2 つの授業規模（30 人以下、31 人以上）を考慮した。なお、平成 26 年度及び平成 27 年度自由記述にかかる分析結果については、平成 28 年度 FD 推進委員会活動報告書に記載済みである。

そして、令和元年度において、平成 28 年度から平成 30 年度までの授業科目について、同様の分析を行った。

3. 分析結果

すでに報告済みの平成 26 年度及び平成 27 年度分の結果に、このたび分析した平成 28 年度から平成 30 年度までの結果を加えて、新たに「学生による授業評価からみた良い授業の構成要素」を作成した。それが表 2～表 4 である。

表 2 学部に見る良い授業の構成要素

カテゴリー 1	カテゴリー 2	カテゴリー 3
授業	内容	わかりやすさ、有用性、多様性、多面性、具体性、体系的 内容の充実、深さ、考え方を学ぶ、思考の促進、知的刺激 、発見・気づき、省察性、主体性、専門性、 応用性
	教授行為	授業秩序、学生との距離感、自由に、適度の緊張感 説明力、的確さ、話術、受講生への配慮、丁寧さ、確認復 習、フィードバック、 整理された板書
	活動	体験型ワーク、グループワーク、ディスカッション、 受講者同士の交流、留学生との交流、意見交換、現職院生 の関与、実習、現場体験、 教室の一体感
	構成	目的・目標の明確さ、見通しの提示、体系的、授業展開、 受講者ニーズへの対応、現職教員の関与
	教材教具	充実した資料、教具
学習者	成果	知識の獲得、能力・技能の獲得、視野・視点の広がり、知 的刺激、楽しかった、面白かった、わかった、充実感・満足感 、達成感、有意義、意欲の喚起、意識の変化、感謝、驚き、 要望、 自信の獲得
教員	特性	人柄(意見を聞く姿勢、個人的魅力、言動、口調、有能さ) 考え方（学生第一）

表 3 修士課程に見る良い授業の構成要素

カテゴリー 1	カテゴリー 2	カテゴリー 3
授業	内容	わかりやすさ、理論と実践の融合、有用性、実践性、多様 性、多面性、具体性、専門性、内容の充実、思考の促進、 知的刺激、視点の転換、主体性、省察性、 問題提起 、 講義とワークショップのバランス
	教授行為	フィードバック、双方向性、的確さ、意見や視点の開示、わ かりやすさ、受講生への配慮、丁寧さ、リラックス、 明確な

		評価基準、適度な脱線、個別対応・個別指導、順序立てた指導、テンポ
	活動	体験型ワーク、グループワーク、ディスカッション、参加型授業、学び合い、現場体験、経験、実習、実験、教員との相互性、密度の濃さ、安全性への配慮、探求できる課題、活動のバリエーション、チームワーク・個性の発揮、共有、やりたくない人への配慮、仲間と刺激し合う仕組み、五感、全員参加型（全員に意見や考えを発言する機会など）、ポスターセッション（ポスター発表）、適度な負担
	構成	目的・目標の明確さ、授業構成、工夫、一貫性、非単調受講者ニーズへの対応、質問及びそれへの回答時間の確保、見通し、外部講師・ゲストスピーカー、段階性（レポート課題→次回ディスカッション、一人で考える→隣の人と考える→グループで考える、など）
	教材教具	充実した資料、リアルな資料、事例の提示、現場の声、推薦書籍、カラー資料
	雰囲気	間違えても良い、周囲で助け合う、安心して仲間と対話できる、緊張感
学習者	成果	知識の獲得、能力・技能の獲得、視野・視点の広がり主体的学び、楽しかった、面白かった、満足感・充実感、有意義、素晴らしい、勉強になった、肯定、意欲の喚起、意識の変化、感謝、参加意識、要望、実践への活用、研究（修士論文）への活用、多様なメンバーとの出会い、自己省察・自己発見、自明性への懷疑、自身の使命の自覚、学び方の学び、快い疲労感
	事前学習	明確な予習内容・予習を基にしたディスカッション、資料の事前配付
教員	特性	人柄、熱心さ、教師としての姿勢、尊敬、丁寧な指導、話し方、教員の連携、豊富な知識と経験、ユーモア、受容的

表 4 専門職学位課程にみる良い授業の構成要素

カテゴリー 1	カテゴリー 2	カテゴリー 3
授業	内容	理論と実践の融合、有用性、実践性、具体性、わかりやすさ、多様性・汎用性、専門性、体系性、思考の促進、省察性、よかった、好奇心をみたす、適度な難易度、学校が抱える課題、多角的、多面的、教材研究、単元デザイン

	教授行為	フィードバック、ふり返り、相互性、双方向性、学生の意見の取り入れ、意見や視点の開示、的確さ、丁寧さ、リラックス、わかりやすさ、 予習課題
	活動	ペア・グループワーク 、体験型ワーク（ 模擬授業、ロールプレイ等 ）、 多様な活動の組み合わせ 、ディスカッション、経験密度の濃さ
	構成	目的・目標の明確さ、教員の分担と連携、受講者ニーズへの対応、一貫性、工夫、バランス、非単調
	教材教具	充実した資料、呈示の工夫、ていねいな準備、現場の声（ ゲストティーチャー、ビデオ等 ）
学習者	成果	発見・気づき・ 刺激 、視野・視点の広がり、楽しかった、面白かった、勉強になった、参加意識、満足度高い、省察の機会、意欲の喚起、意識の変化、感謝、 知的興奮、学校へ還元できる、研究につながる
教員	特性	人柄、熱心さ、ユーモア、学生への配慮、丁寧さ、教師としての姿勢、学生第一、授業改善、 柔軟性、豊富な知識や経験

区分ごとにみられた特徴について、簡潔に言及しておく。

学部では、良い授業の評価基準として、わかりやすさ、有用性、相互交流、楽しさ、があるようである。一方では、専門性や応用性を求める学生もあり、整理された板書や受講生のニーズに合わせた授業を求める傾向もみられる。

修士課程では、良い授業の評価基準として、わかりやすさ、有用性、理論と実践の融合、充実した資料、知識の獲得、知的刺激、楽しさ、自信の獲得などがあるようである。一方、相互性（グループワーク、体験型ワーク）に対する意識もみられるようになっており、相互交流における配慮などへのコメントも多い。

専門職学位課程では、良い授業の評価基準として、理論と実践の融合、具体性、わかりやすさ、多様性、フィードバック、グループワーク、充実した資料、があるようである。学校への還元や汎用性などへの要望が特徴的にみられる。